

2021年度入試

入学試験問題集

【東京成徳大学 子ども学部 子ども学科】



東京成徳大学 東京成徳短期大学

目 次

総合型選抜 9月入試 小論文	1
総合型選抜 10月入試 小論文	2
総合型選抜 12月入試 小論文	3
学校推薦型選抜（公募入試／指定校入試） 小論文	4
一般選抜 D日程入試 小論文	5
出題意図	7

「一般選抜 A 日程・B 日程・C 日程」の問題は、
「2021 年度入試問題集 一般選抜 A 日程・
B 日程・C 日程（全学部・学科共通）」に掲載
しています。

●総合型選抜 9月入試

【小論文】（試験時間：60分）

児童文学作家の灰谷健次郎（一九三四～二〇〇六）は、子どもの詩の纏さんを通して、子どもの詩と子どもの心について、次の文章に記している。この文章を読み、設問に答えなさい。

設問

- 一、筆者が詩を通して見ようとする「子どもの心」とは何かを説明しなさい（三〇〇字以内）。
- 二、文中にある子どもの詩「ゆき」における「すじさ」とは何かを、五歳の作者の心を想像しながら、具体的に述べなさい（三〇〇字以内）。

出題文章の著作権使用許可が下りなかったため、本文を掲載しておりません。

（1,200字程度）。

●総合型選抜 10月入試

【小論文】（試験時間：60分）

以下の文章を読み、病気療養児に対する遠隔教育の利点について、あなたの考えを述べなさい。また、病気療養児以外に対しての遠隔教育の利点についても、あなたの考えを述べなさい。（600字以内・横書き）

病気療養児に対する遠隔教育の取組について

医療の進歩等による入院期間の短期化や、短期間で入退院を繰り返す者、退院後も引き続き治療や生活規制が必要なために学校への通学が困難な者への対応など、病院や自宅等で療養中の病気療養児を取り巻く環境は、近年大きく変化している。こうした状況のもと、病気療養児の教育機会を確保するとともに学習や学校生活に関する不安感を解消し円滑な復学につなげるため、遠隔教育等を活用した取組を進めている。

小・中学校段階については、2018年9月に通知を発出し、受信側において児童生徒の体調管理や緊急時に適切な対応を行うことができる体制を整えるなどの一定の要件の下、受信側に教科等に応じた相当の免許状を有する教師を配置せず、同時双方向型の授業配信^(※1)を行った場合、校長は指導要録上出席扱いとすること及びその成果を当該教科等の評価に反映することができることとした。

高等学校段階については、2015年4月、「学校教育法施行規則」（昭和22年文部省令第11号）の改正等により、一定の要件の下に行われる遠隔教育に加え、通信制課程に準じた特別の教育課程を編成すること（面接指導時間の減免のための遠隔教育・オンデマンド型^(※2)の授業を含む）により単位認定をすることができる特例制度の創設等を行っている。このうち、メディアを利用して行う授業については、2019年11月に通知を発出し、疾病による療養のため又は障害のため相当の期間学校を欠席すると認められる生徒に対し、同時双方向型の授業配信を行う場合、受信側に当該高等学校等の教員を配置することは必ずしも要しないこととした。なお、その場合においても、当該高等学校等と保護者が連携・協力し、当該生徒の状態等を踏まえ、体調の管理や緊急時に適切な対応を行うことができる体制を整えるようにすることとしている。

また、文部科学省では、2016年度から2018年度までは「入院児童生徒等への教育保障体制整備事業」を実施し、2019年度からは「高等学校段階における入院生徒に対する教育保障体制整備事業」を実施しており、在籍校・病院・教育委員会等の関係機関が連携して病気療養児を支援する体制の構築方法に関する調査研究を実施している。

引き続きこうした取組を通じて、病気療養児に対する教育の充実を図っていく。

※1 インターネット等のメディアを利用してリアルタイムで授業を配信し、同時かつ双方向的にやりとりを行うものをいう。

※2 別の空間・時間で事前に収録された授業を、学校から離れた空間で、インターネット等のメディアを利用して配信を行うことにより、視聴したい時間に受講するものをいう。

●総合型選抜 12月入試

【小論文】（試験時間：60分）

テレビやゲームに関する以下の文章を読み、設問に答えなさい。

私たちの分析によると、テレビやゲームが子どもの肥満や問題行動、学習時間に与える影響は小さいことがわかりました。

ただし、たしかにテレビやゲームと、子どもの学習時間の間には負の因果関係があることが示されています。この意味では、テレビやゲームをやめさせれば、子どもの学習時間は増えるというのは間違いではないのです。しかし、問題はその大きさです。残念ながら、1時間テレビやゲームをやめさせたとしても、男子については最大1・86分、女子については最大2・70分、学習時間が増加するにすぎないことが明らかになりました。

テレビやゲームの時間を制限しても、子どもは自動的に机に向かって勉強するようにはなりません。子どもが勉強に取り組む姿勢が変わらないのに、テレビやゲームの時間を制限したら、たぶんそれに類似する他のこと—スマホでチャットをする、あるいはインターネットで動画を観るなど—に時間を費やすだけです。

少なくとも、子どもを勉強させるためにテレビやゲームの時間を制限するのは、あまり有効な方法とはいえないのです。

テレビとゲームが学習時間にもたらす因果効果が小さいのは事実です。ただし、これは「テレビやゲームを無制限に観せても問題ない」ことを意味しているわけではありません。

私たちの研究では、テレビ視聴やゲーム使用の時間が長くなりすぎると、子どもの発達や学習への悪影響が飛躍的に大きくなることが示されています。

それでは、どれくらいのテレビ視聴やゲーム使用だったら無害なのでしょう。私たちの推計によると、1日に1時間程度のテレビ視聴やゲーム使用が子どもの発達に与える影響は、まったくテレビを観ない・ゲームをしないと変わらないことが示されています。一方、1日2時間を超えると、子どもの発達や学習時間への負の影響が飛躍的に大きくなることも明らかになっています。

出展：中野敦子、『学刊』の『経済学』、ライスカヴァー・トリエンテイション、2015年、ISBN978-4-7799-1685-6、pp. 56-57

設問

本文の要点を述べ、テレビやゲームが子どもに与える影響について具体的な例を挙げて、あなたの考えを600字以内で論じてください。

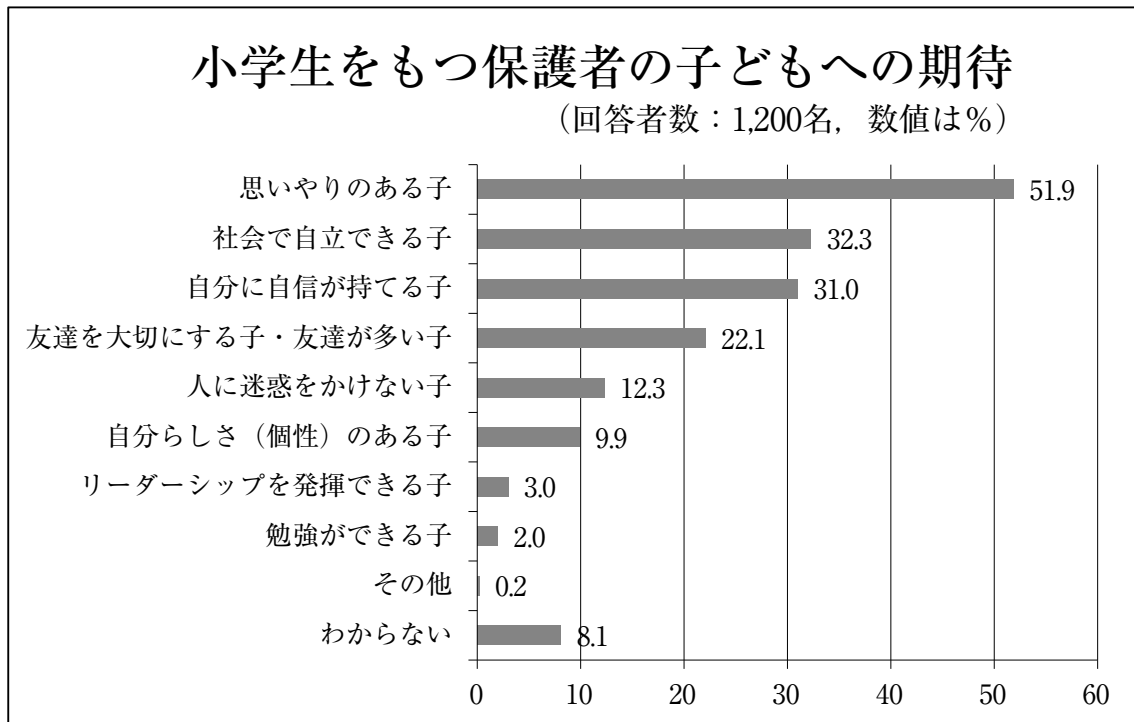
●学校推薦型選抜（公募入試／指定校入試）

【小論文】（試験時間：60分）

下の図は、小学生（1年生～6年生）をもつ保護者に対し、「お子さまには、将来どんな子どもに育ててほしいと思いますか」（2つまで選択）と尋ねた結果を示したものです。

この図から読み取れる保護者の子どもへの期待に関する特徴を述べてください。

さらに、保護者が子どもに期待する姿を育てるためには、子どもにはどのような経験が必要でしょうか。図から読み取った結果と関連させて、あなたの考えを述べてください。（800字以内）



出典：学研教育総合研究所（Gakken）『小学生白書』（2018年9月調査）

●一般選抜 D日程入試

【小論文】（試験時間：60分）

以下の資料を読んで、後の問題に解答しなさい。

日本財団パラリンピック研究会（2014）は、パラリンピック参加対象障害の認知状況や、パラリンピックを機に期待することについて調査をした。日本国内の調査対象者は、20歳から69歳までの男女であった。

表1は、パラリンピック参加対象障害に関して、「あなたは、パラリンピックにどんな障害者が参加するか知っていますか。参加していると思う障害について、あてはまるものをすべてお選びください。」という質問に対する結果を示したものである。

表1の調査における回答者は、調査対象者のうち、パラリンピックについて「内容を知っている」「この名称を見たり聞いたりしたことがある」と答えた1532人であった。たとえば、回答者1532人のうち、男性は760人で、そのうちの89.9%が、パラリンピック参加対象障害として「肢体不自由」を選択したことを示す。

表1 パラリンピック参加対象障害の認知

		回答者数 (人)	パラリンピック対象障害 (%)			パラリンピック対象外 (%)				わからない (%)	正答率（3障害 すべて回答かつ 誤回答なし） (%)
			肢体 不自由	視覚 障害	知的 障害	聴覚 障害	発達 障害	内部 障害	精神 障害		
	全体	(1532)	91.4	57.5	12.5	52.7	9.7	8.4	4.4	7.7	0.5
性別	男性	(760)	89.9	60.5	14.1	55.7	12.0	9.3	5.7	8.9	0.4
	女性	(772)	93.0	54.5	11.0	49.7	7.5	7.5	3.2	6.5	0.6

表2は、パラリンピックに期待することを、6つの選択肢を呈示し質問した結果を示したものである。

表2の調査における回答者は、この調査対象者の全員（1560人）であった。たとえば、回答者1560人のうち、女性はその半数780人で、「生年代別」の女性20代が156人であったこと、その女性20代で「その他」を選択した人は皆無であったことを示す。

表2 パラリンピックに期待すること

		回答者数 (人)	障害のある人の スポーツ機会や環境が充 実する (%)	公共施設等の バリアフリー 化が進む (%)	障害者福祉に 関する国民の 理解が深まる (%)	日本のメダ ル獲得数が 増加する (%)	その他 (%)	期待する ことは特 にない (%)
	全体	(1560)	51.1	48.9	44.9	38.5	1.9	21.2
性別	男性	(780)	46.9	43.7	41.9	36.9	1.9	25.3
	女性	(780)	55.3	54.1	47.8	40.1	1.8	17.1
性年代別	男性 20代	(156)	44.2	40.4	35.9	39.7	1.3	25.6
	男性 30代	(156)	39.7	39.7	34.0	37.8	3.2	33.3
	男性 40代	(156)	41.7	41.0	39.7	32.1	2.6	28.2
	男性 50代	(156)	46.8	50.6	46.8	37.8	0.6	23.1
	男性 60代以上	(156)	62.2	46.8	53.2	37.2	1.9	16.0
	女性 20代	(156)	53.2	51.9	42.9	47.4	—	17.3
	女性 30代	(156)	55.1	55.8	46.8	48.7	2.6	15.4
	女性 40代	(156)	51.9	47.4	46.2	35.3	1.9	21.8
	女性 50代	(156)	56.4	55.8	47.4	41.0	2.6	16.7
	女性 60代以上	(156)	59.6	59.6	55.8	28.2	1.9	14.1

出典：日本財団パラリンピックサポートセンターパラリンピック研究会（2014）「国内外 一般社会でのパラリンピックに関する認知と関心」調査結果報告。
日本財団、より一部改変

【問題1】 「3障害すべて回答かつ誤回答なし」の全体回答者数を、表1に基づいて計算しなさい。計算過程を記すこと。単位は「人」を用いること。小数第2位を四捨五入し、小数第1位まで算出すること。

【問題2】 性年代別で見たパラリンピックに期待することについて、表2に基づいて解答しなさい。各選択肢の結果の最大値と最小値の差を計算し、その差が大きい選択肢を順に2番目まで記しなさい。その際に、「その他」の選択肢の結果の「—」は、0.0%として計算をすること。

【問題3】 あなた自身が、表1と表2の結果を説明するとき、社会における多様性への理解を広めるためには、どのような説明が効果的であるか。表1と表2の結果に裏付けられた、効果的で、かつ具体的・現実的な説明を、600字以内で論述しなさい。

●出題意図

総合型選抜 9月入試【出題意図】

子ども学部学びの根底は「子ども理解」である。それは子どもの心に寄り添い、子どもに共感することを出発点とする。したがって、子ども学部を志望する受験生が、「子どもの心」について思考し、いかにその本質に迫り、論述することができるかを重視するため、子どもの心に関する出題を行った。また本出題は高等学校学習指導要領「家庭」の学習内容である「子どもの発達と保育・福祉」にも準じている。

出題においては『子どもの詩集 たいようのおなら』（灰谷健次郎ほか編、長新太絵、のら書店）より、本書の編纂者の1人で児童文学作家の灰谷健次郎によるあとがき「わたしの教師は、子どもだった」を取り上げた。灰谷は子どもの詩を通して、子どもの心の本質を見ようとする。灰谷によれば、子どもの詩は心を和ませたり、積極的に生きようとする力を与えてくれたりすることで、人の魂を揺さぶる。なぜなら子どもが詩を書くとき、喜怒哀楽を、そのときそのとき懸命に書いているだけだからだ。また、子どもの対象は、あらゆる生命、そして生命のゆらぎであり、子どもはそれに血道を上げるのだという。灰谷はそのような子どもの詩を通して、「人が、ひたむきになることが、どれほど値打ちのあることか」と教えられ、子どもを恩人であり、師でもあると述べている。

文中の5歳児の詩「ゆき」は「子どもの詩のすごさ」を感じさせるものとして、このことを顕著に表している。子どもが日常を通してあらゆる生命と正面から向き合い、ありのままの感情を表現する姿勢こそが、灰谷が見ようとする子どもの心であり、そこに人間の真価も見出していることがわかる。

2つの設問のうち、1つ目の問いでは、文中で筆者の灰谷が意図する「子どもの心」について、キーワードとなる言葉を引用し、要約することが求められる。2つ目の問いでは文中の5歳の子どもの詩「ゆき」から感じ取れる「すごさ」について、「子どもの心」を踏まえ、詩の作者である子どもの心情を想像し、具体的に解釈することが求められる。

総合型選抜 10月入試【出題意図】

本出題では、設問の2題に対し、下記の点について自分の意見を分かりやすい文章で表現することが出来るかをみる。

- ① 課題文を読解する力をみるとともに、文章内から病気療養児に対する遠隔教育の利点を見出し要約・表現することが出来るか。
- ② 病気療養児以外に対する遠隔教育の利点について、自分の経験や社会的に取り上げられた事項などをもとに具体的に考え、説得力をもった論述を行うことが出来るか。

病気療養児に対する教育機会の確保として、遠隔教育は以前より検討を重ねられてきた事項である。しかし、遠隔教育については、新型コロナウイルスの影響により2020年度、多くの学校が遠隔教育に取り組むことになり、それに付随してメディア等で遠隔教育の利点や課題などが取り上げられたことで社会的により一層注目されることとなった。

今回の出題は、病気療養児の遠隔教育の現状を知り、それに対する自分なりの意見を述べるとともに、受験生の身近に起こった遠隔教育について、自分の経験したことをもとに考えを深めるといった、分析力（思考力）、表現力を問う問題である。

総合型選抜 12月入試【出題意図】

テレビやゲームが子どもに与える影響についての出題文を時間内に正確に読み取り、要点をまとめる力があるか。具体例が適切に論じられているか。要点でまとめたことや、具体例として挙げたことを踏まえて、自身の意見を説得力をもって論じることができるかをみる。

テレビやゲームが子どもに与える影響については長い間の議論があるが、どちらかといえば、その否定的な側面を指摘されやすいトピックであったといえよう。しかし、近年ではテレビやゲームなどに教育的要素が含まれているエデュテインメントと呼ばれる分野も確立しており、その肯定的な側面を実感する機会も少なくない。テレビやゲームが子どもの日常に広く浸透している現代の状況において、その影響や利用をどう考えるのかという問いについては、子ども文化全般に興味・関心のある者や子育て支援に関わる力を身につけたいと考えている者にとって、自身の見解を述べることは難しいことではないと考えられる。今回の出題では、受験生が、テレビやゲームが子どもに与える影響に関する出題文や事例を参考にしながら、自身の見解を説得力を持って論じることができるかどうかを重視される。

学校推薦型選抜（公募入試／指定校入試）【出題意図】

高等学校学習指導要領「家庭」の目標には、「人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え、**家族・家庭の意義、家族・家庭と社会との関わりについて理解を深め**、家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて、生活を主体的に営むために必要な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする」と示されており、家族や家庭に関する学修がなされている。

これらの学修内容は、高等学校における学びだけでなく、小学校、中学校における自己の育ちや学びの積み重ねなどの自身の経験も主体的に取り入れた上に成立するものである。

一般的に子どもは家族・家庭の中で育ち、生活の基盤である家族・家庭・保護者の影響を受けながら生活力を身につける。また、家族・家庭は子どもの人格形成に深く関わり、その人間性を涵養していく。

今回の出題では、保護者の子どもへの期待の特徴・傾向を調査結果から客観的に把握した上で、子どもにはどのような経験が必要であるか、保護者の立場や役割、または子どもの立場やこれから求められるであろう立場について自身の経験や考えを主体的に取り入れ、論述することを課題とした。

この問題は、問題の正確な理解、図の的確な読み取り、特徴の分析、思考力を重視するとともに、自身の意見を具体的かつ論理的に表現できる文章表現力を評価するものである。

一般選抜 D日程入試【出題意図】

2020年に開催予定であったパラリンピックを機に、障害者スポーツや社会における多様性への理解が広まることなどが期待されている。他方で、パラリンピックはすべての障害を対象としたスポーツ機会ではないという現実もある。

日本財団パラリンピック研究会（2014）は、パラリンピック参加対象障害の認知状況や、パラリンピックを機に期待することについて調査をした。

この問題では、以上のような内容の課題文を呈示し、意見を述べさせた。なお課題文は表を含んでいる。

出典：日本財団パラリンピックサポートセンターパラリンピック研究会（2014）「国内外 一般社会でのパラリンピックに関する認知と関心」調査結果報告. 日本財団. より一部改変

【問題1】および【問題2】

表の読解の技能を問う。

【問2】

この問題では二つの観点から解答を評価する。

第一は、課題文の理解度である。解答が課題文の主旨に沿っている程度を査定する。課題文を理解するには、パラリンピックの対象となる障害に関して理解している必要がある。また課題文を読解するため、技能を有している必要がある。

第二は、文章表現の適切性である。知的文章として適切に表現している程度を査定する。説得力をもって主張を表現するための表現力を評価する。